

## 令和3年度 燕市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和4年1月27日(木) 午後3時15分～午後4時20分

2 開催場所 会議室301

3 出席者の氏名

市 長 鈴木 力

教育委員会

教 育 長 山 田 公 一

教育長職務代理者 中 野 信 男

委 員 秦 久 美 子

委 員 斎 藤 純 郎

委 員 小 林 恵 子

委 員 上 田 佳 澄

4 説明のため出席した職員

教 育 次 長 太 田 和 行 教育委員会主幹 鈴木 華奈子

学校教育課長 岡 部 清 美 子育て支援課長 白 井 健 次

社会教育課長 石 田 進 一 統括指導主事 五十嵐真紀子

企画財政課副主幹 渡 邊 徳 昭

5 事務局書記

学校教育課 向 井 康 弘 他 2 名

6 傍聴人 なし

7 意見交換

(1) 次期燕市教育大綱の方向性について

次第 別紙のとおり (2 ページ)

意見交換 (概要) 別紙のとおり (3 ページ以降)

令和3年度  
燕市総合教育会議  
＜次 第＞

令和4年1月27日(木) 午後3時15分から  
会場：会議室301

1 開 会

2 市長あいさつ

3 意見交換

(検討テーマ)

(1) 次期教育大綱の方向性について

4 閉 会

## 1. 開会宣言 午後3時15分

## 2. 市長挨拶

皆様お疲れ様です、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

委員の皆様もご承知のとおり、現在、市内でも新型コロナウイルス感染症が拡大しており、学校や保育園などでも感染が広がっていることから、教育委員の皆様にもご心配をかけている。市では抗原検査キットを購入し、行政検査で追いつかない部分を補填して検査を行い、子ども達が早く授業に戻れるように取り組んでいるところである。

この総合教育会議では、私と教育委員の皆さんと、年に一度、市の教育政策に対して様々なテーマで意見交換をさせていただいている。令和4年度は市全体の総合計画の見直しを進めていく年でもあり、教育大綱や学校教育基本計画も作成していく年であるが、作成にあたり議論のとりかかりとして、今回のテーマ設定をさせていただいた。教育委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。

## 3. 意見交換

### (1) 次期教育大綱の方向性について

五十嵐統括指導主事が資料説明を行い、その後に意見交換を行った。

#### ○委員（斎藤委員）

Society5.0 や予測困難な時代に対応する人材育成とは、AI に代替されない力を付けていくことではないか。中央教育審議会による「令和の日本型学校教育の構築」では、教育課程の在り方に関して「基礎学力を保障し、才能を伸ばして社会性を高める」ために学校教育の質を高めていくことが重要とされており、「教わる授業」から「自ら学ぶ授業」への転換が求められている。

この度、改めて陰山英男氏や新井紀子氏の著書を読んできたが、基礎能力が身につけていないことには応用ができないと改めて思った。「自ら学ぶ授業」を実のあるものとして実現するためには、基礎基本を大事にしてほしい。基礎基本を徹底してマスターするとそれが土台となって基礎基本を自在に使いこなす応用力が身に付くのではないか。基礎基本を自在に使いこなす応用力が身に付けば、自ら学ぶ意欲が高まる。基礎基本を大事にすることが、実は急激に変化する時代に対応する資質や能力を身に付ける近道なのではないかと思う。

燕市では「つばめっ子かるた」や「おはようタイム」、「長善タイム」の事業を実施しているが、内容の充実によって、応用力の育成まで視野に入れた基礎基本の徹底を図ってもらいたい。また、家庭では文部科学省が推奨している「早寝早起き」と「朝食をしっかり食べる」ことを徹底してほしい。児童生徒が「自ら学ぶ」姿勢が育まれるように取り組んでほしい。

#### ○委員（小林委員）

教わる授業から自ら学ぶ授業に、ということは非常に大事なことである。私が実際に色々な学校で年間100件程の授業の様子を見て思うこととして、授業のやり方は昔とあまり変わっていないと感じる。教師主導型とまではいかないが、教師が教える授業、教師が子どもに説明して納得させる授業が多い。子どもが主体的になって気付くことが出来る授業が、本来出来るはずなのに、出来ていない。「授業改善」という言葉だけが先行しており、実質どうやって変わっていいか教える側がわかっていない人が多いと思う。授業の質を高めていくことこそが一番重要なのではないか。

#### ○統括指導主事

授業改善については、教員が自ら理解を深めるとともに、子ども達の現状をしっかりと理解しながら取り組んでいくことが重要であると考えている。

#### ○委員（中野委員）

重点検討項目にもあるキャリア教育を推進する体制づくりについて、自分で色々調べてみて中身の深さを感じた。筑波大学の先生がキャリア教育について解説していたものをウェブサイトで見ましたが、算数においてもワンパターンな計算をするだけでは飽きが出るため、実生活に結び付けた考え方ができると良いと言っていた。

角度を扱う算数の問題でも、将来の仕事において、製品設計をする際に必要だと理解できると、とらえ方も変わってくると思う。市長はキャリア項目についてどう考えているか。

#### ○市長

中野委員が話された、授業を実社会に結び付けるということはとても大切だと思う。私が教育委員会にやってもらいたいキャリア教育とは、働く、人と触れ合う、やり遂げる大事さを、社会の中で体験できるような教育である。自分自身の昔を思い出すと、小さい時から店の手伝いとしてお客への挨拶から、購入された商品のお釣りの計算などをしてきた。物の段取りの付け方など授業の中では体験できないものを体験でき、両親の仕事の大変さなどを考えることができた。そのような体験は現在ではなかなかできないが、キャリア教育として子ども達に体験をさせてほしい。燕の産業について体験するのも良いが、職場体験として喫茶店や食堂などでの店番や、市役所であれば書類の整理作業など、他者との会話や大人との接し方を学ばせることが社会に出たときに役に立つのではないかと考える。その中で失敗することも良い経験だと思う。私自身も子どもの時にお釣りを間違えてしまい店に損失を与えてしまった経験は今でもよく覚えている。

#### ○委員（中野委員）

その教育は具体的に何に役立つものとなるか。

#### ○市長

社会性の育成に役立つものだと思っている。働く意味や大変さを学べる。今の子どもは学校の中では守られているが、卒業して社会にいきなり出されて適応できないことがある。

キャリア教育での経験を通じて社会を学び、お金を稼ぐことは大変であり、働くことが家庭や社会に役立つことを学べることは大事だと思う。

○委員（中野委員）

キャリア教育について私が調べた中で、兵庫県が神戸の地震があったときに、不幸が多かったことから子ども達が荒れた時期があったそうである。その中で、子ども達が5日間の職場体験、福祉体験を通じて、一人一人が自分の生き方を見つけられるよう支援する事業を「トライやる・ウィーク」という名前で実施した結果、社会性の育成や子ども達が落ち着く事ができたという結果があった事を知った。社会と関係しているということと言葉だけでは理解できないと思うが、小さいことからでも実際に社会と接することができるよう、連携した取り組みができるとうい。

○市長

教育は基本的に社会に出るための準備だと思っている。学校で漢字や数字を教えられるが、実社会で仕事に触れることを体験できるのは難しい。それを体験できるのがキャリア教育の重要な点である。キャリア教育は地場産業の担い手を作ることが目的ではないと思っている。結果としてそうなることについては良いことである。

○委員（中野委員）

キャリア教育も、小学校、中学校など成長段階に応じて学ばせる範囲を設定することが必要だと思う。

○市長

小学校なら「挨拶」という視点で学ばせるということでもよいと思う。その先のプラスアルファは受け入れてくださる企業の観点で実施していただくようお願いもできる。

○委員（中野委員）

市の「心の燕市の8つのチャレンジ」の項目の一つには「明るい挨拶をしよう」というものもある。その実践として実社会でやってくるというテーマでもよい。

○委員（小林委員）

職場体験をさせてきた側として、職場体験によって表れる子どもの変容をお伝えしたい。中学生であっても、自分達が実生活の中で守られて生活できていることに気付いていない場合が多いが、職場体験で生産側、供給側の視点に立つことで、その奥にあるものを感じてくれるようになる。

○委員（上田委員）

保護者アンケートの結果で、保護者が郷土愛について重要とっていないことについて驚いている。昔は、良寛教育、鉋起銅器や長善館や大河津分水などについて現場に赴くこ

とがあった。現在は「つばめっ子かるた」や「燕ジュニア検定」ができて燕市を知る方法は以前より豊富になっているが、実際に体験する機会が減っていると感じる。燕ジュニア検定の問題に触れて燕市のことを学ぶきっかけはあるが、実際に触れて学ぶことを増やしてほしい

#### ○市長

「つばめっ子かるた」や「燕ジュニア検定」が始まったばかりの頃は、題材となった場所に行ったということをよく聞いた。現在はコロナの影響もあるのかもしれないが、ここ数年は体験する機会が減っていることもあるのかもしれない。私もアンケートの結果を見てショックを受けた。

自分がどこに生まれてどこで育ったかという事は、地元を離れて外に行くとその重要さが理解できることから、ふるさと教育は大事である。私も大学時代に全国からの同級生と話す際、自己紹介で新潟県燕市出身というと、他県の人にはスプーンなど、カトラリーのまちとして皆に知られており、地元を誇りに思うことが出来た。子ども達のアイデンティティを育てることは、日本一輝くまちつばめというところに繋がっていく。何と言われても大切にしていかなければいけない。

#### ○委員（秦委員）

親世代が郷土愛を重要としていないのは、親世代が郷土学習をしていないことも理由であると感じる。私も粟生津地区にいたが、長善館と言われてもお年寄りの集会所くらいとしか思っておらず、地元を出て長善館のすごさを知った。親世代が教育の中でも地元でも教わる機会がなかった結果が、今の親世代の保護者アンケートの結果に繋がっているのだと思う。

また、資料の中で、読解力、表現力、生み出す力、言葉の力、家庭力、地域力、説明力と「力」が入った言葉が多くある。燕市の教育理念や目指す子ども像として「郷土を愛し、心豊かで生きる力がみなぎる子ども」とあるが、これらの「力」がバランスよく備わることで、子ども達の学びに対する意欲が向上するものだと思う。私が地域ボランティアを行う際にお年寄り達から、若い親は家庭力がないということを聞く。「Good Job つばめ推進事業」などで働く大人達と関わることで、多様な職種への理解が始まり、自ら学ぶ力を高めたいけるような子どもが増えてほしい。保護者アンケートでは、地域とのかかわりが少なくなっていると感じているとあるが、コロナの影響がなくなったら、地域の集まりが増えるといい。

#### ○市長

家庭力や地域力を強化していくのはどうしたらよいのかと考える。コロナで他者との関わり方が制限される環境の中、子ども達の社会性を育てる難しさを感じる。

親世代の教育としても、燕市では「燕市立小・中学校の発展を願う市民の会」がこれまで保護者に対してセミナーなどを開催してくれていた。私自身参加させてもらった時の講師の話は今でも覚えている。このような場を設けていくことも大事なものである

#### ○教育長

昔と今では子ども達の学ぶ環境が変わってきている。昔は知識偏重として詰め込み式の教育だったが、現在は基礎を応用し、新しいものを作り出す力を養成するのが大事になってくると思う。そのためにも、読み取る力や他者と関わり合いの中で答えの無い問いを考えていくことが大事だと感じており、今年度から実施している「読解力プロジェクト」はその基礎となってくれるものと期待している。

子ども達に色々な体験をさせることは大事であり、それが個々の土台となり、肥やしになる。学校で学べる知識と組み合わせてやっていくことが必要である。

#### ○市長

教育長の言葉にもあったが、世の中はどんどん変わっていく。現在のやり方も5年後には変わっていると思う。「何を学ぶか」ではなく、「自分自身で何をどう学んでいくか」という学び方を学んでいくということが大事である。

これまで燕市がやってきたことは、教育委員会の「長善館学習塾」などで体験やチャレンジの中から工夫して学ぶことを教えてきた。自分自身の勉強方法を確立することが出来れば、その時代に合わせた必要な知識を学べることになる。

職員からアイデアの出し方について聞かれることもあるが、教育の事業を考える際には、教育を離れて別の視点、例えばITやDXを調べ、その手法をどう教育に生かせるかを考えていく。学び方を知っていると応用がきく。

先般テレビ番組で、フリーランスの美術教師について特集していた。常識を疑うという事を授業で行っており、そこから新しいアイデアが生まれるという事であった。今はそこから触発されて、燕市の教育でも何かできないかと思っている。

#### ○委員（中野委員）

社会に出ると、物事を説明する際に、話が上手な人の話はすぐ理解されるが、表現力が乏しいと十分伝わらず、他者の理解を十分に得られないこともあることから、表現力の重要性を感じる。人を動かすには、表現力と学び方を知っているという事の2つを両輪で動かすことができると良い。

#### ○市長

今の子ども達は、授業においてどれくらい発表する機会があるのか

#### ○統括指導主事

授業では、全体での発表の場所もあるし、隣の子に自分の考えを伝え合うという時間も設けている。

#### ○市長

長善館学習塾で、最初は控えめだった子どもが最後にハキハキと発表しているのを見ると、発表の機会を多く設け、数をこなすことが重要だと思う。インプットは色々な形で

きるがアウトプットの機会を多く設けることが必要である。

○委員（上田委員）

資料によると、将来の夢や目標を持っていると肯定的回答をした児童生徒が燕市は全国より少ない。子どもの夢はサッカー選手や歌手など、非現実なところから始まると思うが、色々な夢を持つ子ども達に対して後押しできるような教育の場があるといいと思う。

○市長

これまでにスポーツ界の有名人を招いて教えてもらい、子ども達に夢を持ってもらうことは「ビクトリークリニック」や「キャプテンミーティング」で単発的に実施してきたが、一昨年、昨年と「フェニックス600」という事業で多分野の有名人を講師として呼ばせていただいた。今年度もバドミントンの奥原選手を呼ばせていただいたが、現役のオリンピックの指導はやはりすごかった。継続的にお願いできるものであれば実現させたい。

○市長

まとめとして、教育委員会事務局にお願いという形になるが、本日の意見は各種計画の策定に活かし、実現できるように検討を続けてほしい。これまでも、子ども達に対して事業を色々と実施しているが、保護者アンケートの結果に結び付かないのは、伝わっていない部分が多いからであると思う。読解力育成プロジェクトといっても、受けている子ども達は理解できても、保護者達にその中身まで伝わっていない。どのような授業改善でどのような目的を持っているのか、見える化を図ってほしい

郷土愛については、ちょうど令和4年が大河津分水通水100周年になるので、これがきっかけで郷土教育ができる機会だと思う。長善館、燕の産業、大河津分水がすべてストーリーになって取り組めると思っている。また、鈴木文臺の功績を漫画にして授業に活かすことや、大河津分水をテーマに曲を作ってもらうことを計画している。計画の策定に合わせて色々なことに取り組む良い年であると思う。

もう一つ、これからの時代を考えてSDGsというテーマがある。NHKの子ども向けのSDGsテーマにした番組があり、そのテーマソングが「ツバメ」という曲である。番組では子ども達が曲に合わせてダンスを踊りSDGsを広めていくのだが、燕市が「ツバメ」に乗らない手はないと思う。とても良い歌詞であるので是非聞いていただきたい。

5. 閉 会 午後4時20分